

学園だより

Vol.92

2012.10
Nara Women's
University



大学構内の紅葉(奈良女子大学メールマガジンより)

| | | |
|-------------------------|---------------------------|----|
| 試行錯誤の愉悅 | 甲斐 健人 | 1 |
| 教養広場 Liberal arts Forum | | 2 |
| 金環日食とスーパースター | 中沢 隆 | |
| 栄養学と免疫学について | 小倉 裕範 | |
| 寄稿 私のチャレンジ | | 4 |
| | 西川ゆみ・富士香奈・原山こころ | |
| 卒業生からの寄稿 | | 7 |
| “奈良”という場所を活かした大学生生活を | 石飛加寿子 | |
| 将来の夢と十年後の自分 | | |
| 逆説・「諦める」ということ | 高橋 裕佳 | |
| 佐保会だより | | 10 |
| こんな本を出しました | | 11 |
| | 加須屋 誠・磯部 敦 松澤 淳一・鈴木 則子 | |
| 新任部長紹介・新任教員紹介 | | 13 |
| 学生生活支援 | | 14 |
| 学生相談室から | | |
| 特に優れた業績による返還免除 | | |
| 家計急変による奨学金 | | |
| 授業料免除についてのお知らせ | | |
| 広部奨学金授与式について | | |
| カルト集団に注意を! | | |
| 平成24年度就職活動支援行事カレンダー | | |
| | (後期分) | |

試行錯誤の愉悅

甲斐健人

文学部 准教授
人間科学科 スポーツ科学コース



TAKEITO
KAI

「あきらめなければ夢はかなう」。

五輪期間中、何度も耳にした言葉です。選手たちは「長くて短い一四年間を、この思いを胸に過ごすのでしょうか。その同じ時間は、かつての生徒を学士に育てます」。

たまに学生と一緒に身体を動かし、相談に乗る程度ですが、二つの運動部で顧問をしています。内実に迫りきれない部分もありますが、私の目に映る学生たちの姿をご紹介します。

バドミントン部は、近年、一定の競技レベル経験者の入部が続き、かつてない状況を迎えています。リーグ戦昇格も視野に入れ、週三回の練習内容も変わってきました。



部員間の競技レベルが開けば、練習計画にもより多くの工夫が必要でしょうし、試合出場者の選考に伴う配慮なども重要でしょう。スポーツは、身体を使ったコミュニケーションの機会です。対戦相手はもちろん、味方との「会話」を楽しむ、その中で自分に挑戦する。いろいろなやりとりを通して、未知の

自分が現出することもあります。様々な出会いを求めて昇格をめざしながらも、勝敗や結果にとらわれる必要はないでしょう。十八人それぞれが、夢中でシヤトルと戯れてほしいと思います。

サッカー部は、年度末は危機的状況でした。十人が卒業し、部員数はヒトケタ。休部を危惧していました。幸い、経験者も含めた一回生八人を迎え、勢いを取り戻しています。週二回の練習日以外に、グラウンドでキックの練習やランニングをする姿を目にします。ほとんどが大学から始めた上回生は、他人人とはなく、過去の自分との比較によって、手ごたえを感じつつあるようです。教職員との練習試合でも、その上達ぶりが現れています。力量に応じた取り組みを模索し、自らの身体のある様を変えていく彼女たちの経験は、今後の財産になるのではないのでしょうか。



前顧問 上野名誉教授を囲んで

部活は本来、学校制度の下で、学生が、誰からも強制されないといい意味で、主体的に取り組む活動といえましょう。

「主体的」というところに、想像以上の困難と、無限の可能性が潜んでいるようです。

本学の部活の課題は、主に部員の確保と運営指導体制の確立ではないかと思えます。初心者を迎える姿勢は不可欠でしょう。部活に対する部員の思いは高校時代以上に多様でしょうから、学生同士で活動方針を決めることは、悩みの種かもしれません。学生生活を豊かにするため、既存のイメージにばらねず、自分たちのやり方を模索してほしいと思います。部活が存続しているという意味で、先人に感謝し、敬意を払うことはあっても、卒業生や指導者のために活動するわけではありません。

スポーツは、わずかな勝者を生み出すために、大多数の敗者を生み出す仕組みを抱えています。「成果」にかかわらず、過程を大事にする。部活とは、そんな楽しみ方が許される活動かもしれません。



金環日食とスーパーパースター

中沢 隆

理学部 教授
化学科 基礎化学講座



TAKASHI
NAKAZAWA

今年の五月二十一日の朝、奈良では次がおよそ百年後という金環日食が観測できた。ちょうどその頃、私はバンクーバーで学会の初日を前にカナダと日本の時差を忘れて、たぶん大いびきをかいていた。高校三年生の秋、これも数十年に一度というジャコビニ大流星群の接近による流れ星を見ようと徹夜で寒空を眺めたのになぜか現れず、

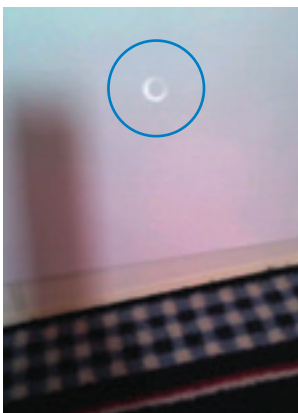
次こそはと大学に入学後迷わず天文同好会に入ったぐらいた天文ファンである。一生の不覚といていい。天文同好会に入ったもののマイ望遠鏡を覗いていた本格派の会員に相手にされず、天体観測に参加することは一度もなかった。

歳をとって好奇心が衰えたのか、見損ねた金環日食の次にあった金星の太陽面通過は肉眼でちらりと眺めてみたものの、金星の影など見えるはずはなかった。

星への好奇心は残しつつ大学で化学の研究を続けようとしたのは、タンパク質の中で一個の炭素原子だけをその同位体で標識した実験で、真夜中に核磁気共鳴装置のスクリーンに一本だけのシグナルが見えてきた時である。世界でただ一人、月面上にいるような奇妙な感覚に捕われた。柳の下の泥鰌をもう一匹つかまなくてはと深みにはまった。競馬で大穴を当ててやめられ

なくなるのと一緒である。以来、人生を棒にも振らずこうした文章を書いていられるのは幸運としかいいようがない。

奈良市の小学校では金環日食のために登校時間を繰り下げた。子供たちの理科離れ対策に役立てようとしたのかもれない。六年生の息子が撮って携帯メールでカナダに送信（後日日本で



金環日食の像

受信）した日食の写真を示す。しかし、彼に科学に興味を持たせようとしたつもりは全くない。私がイメージする科学者は、ギャンブラーが冒険家タイプに近いので、どうしたら青少年を健全な理科好きにできるか見当もつかない。

百年に一度といっても金環日食はかかるべき時が来れば誰でも観測できると思えばあきらめがつく。誰も予測しなかった時刻に日食の予言を的中させた大昔の暦学者なら大喜びする資格が十分にある。こういう喜びはお金に換えられない。探検家が人跡未踏の地へ

の一番乗りにも命を懸けると同じかも

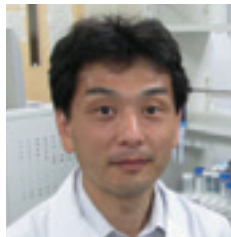
厄介なのは発見の喜びの後、必ずあれは夢か幻ではなかったかという揺り戻しが来ることである。あるかどうか誰も知らないものを探しているうちは夢中だが、発見が真実だったかどうか確かめる作業は感動が大きければ大きい程しんどい。私が卒業研究から七年過ぎた研究室は、昼間からテニスなどして、夜になってようやく実験が始まることも珍しくなかった。「死んだ気になって頑張れ」という方針の研究室が多い中で、「何もしないでいると何かしないではいられなくなる」雰囲気研究室を支えていた。スポーツでも研究でも勝負にこだわりの、試合や学会にはほとんど同じ準備態勢で臨んだ。

金環日食の前日と前々日に、金環が見られるコースからわずかに外れた仙台に往年のアスリートが集まった。ほぼ全員還暦を超え、定年が間近なのにこれからの研究を語り、珍奇な失敗を自慢しあった。失敗続きでたまに成功するから研究は楽しい。こうした科学好きの奇人を結集したスーパーパースター（星ではない）は海鮮料理をという弟子たちの勧めを退け、名物牛タンを頬張った。

栄養学と免疫学について

小倉 裕範

生活環境学部
食物栄養学科
教授

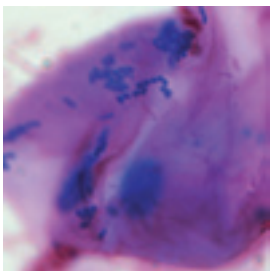


YASUNORI
OGURA

ここ十数年来自然免疫という身体の働きについて研究しています。二〇一

一年のノーベル賞医学生理学賞が自然免疫の研究者に授与されましたので、自然免疫という言葉も少しは世間に認知されるようになったのではないかと思います。自然免疫の研究は一九九〇年代後半に急速に盛り上がり、二〇〇〇年代前半にはほぼ現在の形で確立しました。二〇一一年のノーベル賞受賞者たちはその隆盛のきっかけを作った研究者たちです。私自身は一九九九年に偶然、自然免疫に関わることになり、微力ながらこの分野の発展に貢献してきたと自負しています。

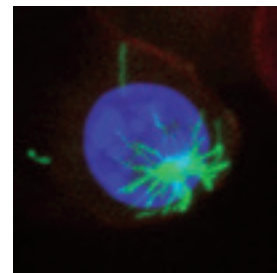
免疫とは感染症に対する抵抗性のことです。免疫系が病原体を排除するためにはまず、その病原体を自分自身と区別しなければなりません。そのためには自分以外のモノ（異物とい



口腔粘膜上皮

います）を見出すための「異物センサー」が必要です。免疫学の発展史上初めて見出された異物センサーは抗体タンパク質です。抗体タンパク質は抗体遺伝子の組み換えという方法で、出生後に作られます。このように出生後に獲得される免疫は獲得免疫と呼ばれます。一方、一九九〇年代後半、生まれながらにして機能する異物センサーが次々と見つかりました。このような生得的な異物センサーは自然免疫受容体と呼ばれ、自然免疫受容体の働きとしての自然免疫が注目を浴びました。自然免疫受容体とは、ヒトが進化してくる過程でゲノムに刻み込んだ、種としての記憶であるといえます。

さて、自然免疫の学問としての枠組みはもう既にできあがってしまったと、私は思っています。したがって、私自身も研究の方向性を変えなければなりません。二〇一一年四月に奈良女子大



マクロファージ

学生活環境学部食物栄養学科にて採用していただけたのも何かの縁です。研究課題を発展的に転換するよい機会だと思っております。

免疫と栄養、なんてことをつらつらと考えていて、今更ながらひとつ気がついたことがあります。栄養学といい、免疫学といい、いずれにしても環境に由来する異物と身体との関係を研究する学問だという点です。異物を作り替えて取り込んでしまう機構を研究するのが栄養学、一方で異物を排除する機構を研究するのが免疫学や毒物学・薬学です。身体の外からやってくるという意味では同じく異物ではありますが、身体側の応答によって研究分野が異なっているといっただけです。

それなら学問分野の枠組みを一旦取り払って、異物と身体との相互作用を総合的に眺めてみることはできないものでしょうか。自然免疫の研究が明らかにした重要事項のひとつとして、「身体は自己と非自己を区別できるのみならず、危険なものとそうでないものとを区別できる」という命題があります。また栄養学が教えてくれるところでは、身体は利用可能なものと利用不可能なものとの区別し、また分子の大きさや親水性／疎水性、荷電状態などでも区別します。おそらく対立軸はこれらばかりでなく、思いがけない特性を頼りに身体は物質を仕分けし、身体内での行方を決定しているのではないのでしょうか。そんな仕組みをもっと網羅的に、もっと統一的に考察してみたい。現在、そんな夢を描いています。

「お上手ですね」という言葉

西川 ゆみ

大学院人間文化研究科 博士後期課程
比較文化学専攻 一回生

YUMI
NISHIKAWA

「中国語がとてもお上手ですね。」

台湾に留学して一か月、聞き飽きる

くらい聞かされた言葉。私が挨拶をしたら、すぐにこう言われる。「上手だ」と言ってくれる

人に、「ありがとう」とか「そんなことありません」とか、し

どろもどろになって答えられないといけない自分は、やっぱり「上手」などではなくて、「上手」と言われるのが、どうしようもなく悔しくて嫌だった。相手は善意で言ってくれるのだから、でも「上手」を言われていて、私は会話を続けようという努力をしなくなってしまう。

そんな頃、「あなた、日本人に見えん。」と唐突に言われた。「だって日本の女の子は、もっと細くてスタイルがいいはずや。」啞然としたけれど、この友人の率直さを新鮮に感じて、よく話をした。思いもよらない質問を、必死で頭をひねって考えて、不自由な語学



国立清華大学大学院

力で回答する。私が答えられないでいると、友人は黙って先へと歩いて行く。もついのかな、とほっとしていると、しばらくたってから「考え付いた？」と友人。答えるのを待ってくれていただけだった。この友人との訓練とも言うべき会話を続け、また友人の率直さに感化されて、人との会話を放棄することはなくなった。ことこの友人とは、歯に衣着せぬ会話を帰国前まで続けることになる。「太い」と言われれば、眼の前で大量の鶏の揚げ物を食べる彼女に、「あなたは、ダイエットするんじゃないかっただけ？」と嫌味を言った。気づけば、「痩せたん？」が寮の浴室での二人の挨拶になっていた。今となっては、彼女と交わした会話は、すべて関西弁になって脳内再生される。

私は日本にいた時、留学生に「日本語上手だね。」と何回も言った。そして「上手」と言いながら、相手が話せないでいると、「どう言いたいでしょ。」と先回りしてしまう。傷つけないか心配で、丁寧にしないといけない気がして、優しさのつもりで言うてきたけれど、それは本当によかったのかな、と思いついた。友達との会話は褒め合うので

もなく、なごやかに時候の挨拶をすることもできない。思い思いの意見を言うって、時にはからかったりからかわれたりすることだと思ふ。そうした友達との会話を、私は海外でも享受することができた。言葉の壁を越えて、ときには日本にいた時以上に遠慮なく。さらに、友人は決して先回りして、「こういうことでしょうか？」と聞いてくれることはなかった。回答にならない私の意見を、聞き終わるまでじっと待つ人だった。今思えば、この待ってもらえることがどれほど私の語学力のためになったかしかない。

帰国際に、この友人を大変笑わせた話がある。私としては、ネイティブに間違われるほど、語学力が向上した証拠みたいだと思つて、自慢したつもりだったのに、「日本人に見えんからやる」と、ただ笑われただけだった。ある行事で日本人の観光客も多かったため、簡単な通訳を任された。日本語の堪能な老婦人に、日本人かと思つて、私が日本語で応対したら、こう言われた。「あなた、日本語がとっても上手ね。」



世界を飛び回る研究者へ

富士 香奈

大学院人間文化研究科 博士後期課程
複合現象科学専攻 一回生

小学生の頃から、研究者や冒険家に憧れていました。自然科学といえれば研究者。理科が大好きだったので、雷雨の日には窓を開けて、雷を研究する人になりたいと思っていました。また、冒険家の小説を読んだときには、世界中を駆け巡りたいと思っていました。

現在その夢は、世界中を駆け巡る研究者へと変化しました。博士後期課程に進学し、今はタンパク質などの生体分子の多自由度な時系列から有用な情報を抽出する研究を行っています。そしてその成果を発表するため、国内外の研究会や学会に積極的に参加しています。特に、昨年度はスロベニアで行われた非線形の研究会 "8th International Summer School/Conference LET'S FACE CHAOS THROUGH NONLINEAR DYNAMICS" でポスター発表する機会をいただき、初めての海外発表に挑戦しました。

このスロベニアの研究会は六月下旬から七月上旬の二週間行われました。初めの一週間はサマースクールを兼ねていたこともあり、学生の参加も多く、イギリス、メキシコ、ベラルーシなど様々な国から学生が来ていました。

この研究会でのポスター発表は特別にその時間ととられているわけではなく、講義や口頭発表の合間にあるコーヒープレイクの時間に自由に発表するとい

う形式でした。

英語が得意でない私はコーヒープレイクの度に緊張し、全くブレイクになりません。しかしこの形式のおかげで、多くの方に発表を聞いていただくことができ、がむしやらに何度も説明を繰り返すことでだんだん慣れることができました。慣れてくるとさらに説明したい、もっと伝えたいという思いが出てきて、発表も積極的になっていきました。



スロベニアの研究会でのポスター発表の様子

また二週間という比較的長い期間のおかげで、研究者を目指す海外の学生と仲良くなることができ、Facebookで連絡を取り合うことのできる友達になれたことも、大きな収穫となりました。

奈良女は小さな大学ですが、だからこそ自分から外に出て、自分の選択で挑戦していく事の必要性に気づくことができます。私は奈良女にいたからこそ、このような素晴らしい経験ができたと思っています。研究する楽しさだけでなく、自分の研究を発表し、議論することの楽しさや難しさを経験することが研究に対するモチベーションを上げ、

KANA
FUJI

自分を成長させてくれていると感じています。

今の目標は、自分の研究をもっと自分のものにして国内外の研究者と議論することができるような一人前の研究者になることです。私の研究はこんなに面白いんですよということを体全体を使って表現できるよう、日々の研究に邁進し、英語力だけでなく発表の技術を磨きたいです。



音を紡いで

KOKORO
HARAYAMA

原山 くるる

大学院人間文化研究科 博士前期課程
生活健康・衣環境学専攻 一回生

短い学性生活の中で、誰しも一つはやりきった何かを自信としてたずさえ、新しいフィールドへ踏み出すでしょう。大学院生活一年目を過ごす私も、学部生の頃に所属していた部活での経験が、目には見えない人生の深みとして私の中で息づいているように感じています。

『三度の飯より楽器!』そんな人間の集団である京都大学交響楽団(通称京大オケ)への入団を決めたのは、入学式も終わり奈良の空気の美味しさを味わう余裕も生まれた、そんな時期でした。温かくアットホームな奈良女子大学管弦楽団への入部と散々迷った挙句、母校とはまた違った繋がりを探求めて、学外の世界へ身を投じることを選びました。



年に2回行われる定期演奏会のゲネプロの様子。
独特の緊張感は、ここでしか味わえない。

授業を終えて、京都へ練習に通う日々。帰りたいたい近鉄奈良駅で車掌さんに揺すり動かされて起きていたにもかかわらず、とても満たされた毎日でした。高校までの技術的な習熟度を確認するためだけの合奏とは違い、その曲と向

き合う心構えみたいなのを体感し、共有する場として週三回の練習は位置づけられていました。「なぜここが八分音符でなく十六分音符なのか」、「このデフレッシュエンドはどのような意味があるのか」等、練習中も様々な疑問が団員間で交錯します。「それは作曲者がたまたまそうしたかったんでしょ」と昔の私なら一蹴してしまいそうなところですが、作曲者の生きた時代と年齢と育った環境と、その他諸々の要因から生み出されたことを改めて確認すると、自ずと作者の持つカラーが見えてくるのです。そんな作業を重ねていくうちに、会ったこともない作曲者のことが身近な知り合いであるかのような錯覚に陥り、曲そのものへの愛着が増し、さらには自分のその曲への『こだわり』が生まれます。

曲のメインとなるフレーズがあれば、そのイメージを各々が持つことも重要です。同じメロディーでも、自分は自然の広大さを、ある人は日常の「コマを、またある人はアニメのワンシーンを、十人いれば十様に思い浮かべます。自分とは全く違う感性を垣間見るのも、音楽の粋な側面と言えましょう。各々のイメージをある程度すり合わせたところで、それを表現するにふさわしい理想の音はどのように出すのか、そこ

から演奏技術へのアプローチが始まるのです。

退団した現在は、奈良女子大学管弦楽団の演奏会に参加させて頂いておりますが、母校の友人・仲間のひたむきさに感化されることが多く、曲に対する想いの際限のなさによって幸せな戸惑いを感じています。音楽を通して学んだ、曲へのこだわりやイメージを持つ大切さ。これは音楽に限った話ではなく、私自身がこれから人生を設計していく上での幹になるのではないかと期待しています。今の私をかたちづかった素敵な『めぐりあわせ』に感謝しつつ、学部時代の思い出を胸に研究に励む今日この頃であります。

奈良という場所を

活かした大学生生活を

石飛 加寿子

文学部 国際社会文化学科
古代文化地域学講座 平成十八年卒業
サントリーパブリシティサービス株式会社
サントリー美術館 G



KAZUKO
ISHITOBI

大学を卒業して早六年が経ち、学生の頃を懐かしく思う今日この頃です。

私は卒業後、サントリーパブリシティサービス株式会社に入社し、白州蒸溜所・山崎蒸溜所で工場のご案内やイベントの運営に携わりました。その後、二〇一〇年よりサントリー美術館で勤務をしています。



サントリー美術館外観
©木奥恵三

サントリー美術館ではお客様対応や友の会の事務局、教育普及活動の責任者として約三十名のスタッフとともに仕事をしています。おもてなしされることに慣れていらっしゃるお客様に対し、より満足度の高いサービスを提供するためにできることをスタッフ研修でのロールプレイングで考えたり、災害発生時のリスク対策をクライアントと共に洗い出したり…と仕事の内容は多岐に渡ります。

「美術館」という場所は一般的な商業施設や工場見学の施設にいらっしやるお客様とは異なり、「ゆっくりと展示を見たい」「スタッフに邪魔をされたくない（監視されていたくない）」という考えのお客様もいらっしやいます。「適度な距離感を保ちながら、お客様に応じた丁寧なサービスをすること」を目標にしていますが、時には難しさを感じることもあります。

しかし、沢山のお客様の満足そうな様子を拝見すると、また頑張ろうという大きな活力になります。

現在は入社の動機になった「美術館の仕事」ができていますが、必ずしも最初から自分が見たいと思っていた仕事ができただ訳ではありません。苦手な仕事や叱られることも沢山ありました。

しかし、多くの先輩や同僚、クライアントからいただいたアドバイスを受けて、その後の行動を考えることが大切です。その時に考えたことや悩んだことが、自身のノウハウとして蓄積され、日々の仕事の中で活かされるが多々あります。皆さんも社会人になった直後は悩むことも多いかと思いますが、入社四年後、五年後…に花開くことを夢見て頑張ってください。

「大学時代はアルバイトでコミュニケーション力を身につけました」という方もいるかもしれませんが、私はあえて学業をメインで取り組むことをお勧めいたします。私は両親の支えもあって、学業や趣味に専念できたのですが、その際に一番大切だと感じたことは、「自分の目で見る、感じる」ことです。今は、寺社仏閣や美術作品を指一本で検索できる時代です。そんな時代だからこそ、現場に足を運んで体感してみることが、はじめて、その魅力を深く感じられるのではないのでしょうか。

四年間という限られた学生生活の中で、アルバイトに力を入れる、サークル活動を頑張る…というのも良いかもしれませんが、「働く」ことやサークル活動に似たものは、社会人になっても十分に出来ます。だからこそ、社会人になつてからなかなか時間を割くことができない、奈良という素敵な環境を活かしたフィールドワークやゼミでの研究にしっかりと力を注いでみてはいかがでしょうか。

自分の生き方の幅を大きく広げるのも狭めるのも、大学時代の過ごし方です。実り多き学生生活を過ごされることをお祈り申し上げます。

将来の夢と十年後の自分

大学院人間文化研究科 博士前期課程
数学専攻 平成十九年修了
広島国税局

「将来の夢は学校の先生になること。」これは、かつて奈良女子大学に入学した頃に漠然と抱いていた私の将来像でした。なぜ学校の先生なのかと問われると、明確な答えはありませんでしたが、小学校の教師をしていた父の影響が多分にあったように思います。専攻した数学に悪戦苦闘しつつ、教員免許を取得するために様々な講義を受講しました。単位取得に苦労しましたが、充実した大学生生活を過ごすことができました。

しかし、三回生になった頃、このまま教師になってよいのだろうかという迷いが生じました。当時、就職活動が本格的に始まっていた時期でしたが、実際に教育実習で、子供たちと日常的に接するなか、この子供たちを教え、導くことが果して自分にできるのだろうかという疑問を抱いてしまったのです。実習期間中、そのことが脳裏を離れず、こんな中途半端な気持ちのまま教師になっては子供たちに申し訳ないという気持ちが大きくなり、思い悩んだ末、教師の道を断念しました。もっと踏ん張って頑張れば違う人生であったとも思いますが、今では後悔はありません。そして、当時悩みながら選択した職業が、現在の「国税専門官」という仕事でした。

「国税専門官」とは、国税庁、国税局及び税務署で税務行政を執行する国家公務員です。国税庁は国の歳入を司る行政機関で、「適正かつ公正な課税及び徴収の実現」を任務としており、国の財政基盤を支える主要な機関です。その任務を果たすには、「税のスペシャリスト」として、税法はもちろん、様々な法律や経済情勢の知識や教養が必要となります。そのため、採用後には税法を一から学べる研修があります。私

が採用された当時は、採用直後に埼玉県にある税務大学校で四カ月間税務の基礎知識を学び、一年間の実務経験を経た後に、さらに七カ月間の専門的な税法の研修がありました。当初目指していた教師とはまったく異なりますし、専攻していた数学とはほとんど関わりはありません。しかし、「国税専門官」は、何も知らない自分でも一からチャレンジできる研修があり、何よりスペシャリストとして働くことが魅力的でした。決心したら後は実現に向けて突き進むのみ。国税専門官試験の合格に向けて、一般教養科目や法律などの専門科目を、がむしゃらに勉強しました。その甲斐あって、現在は広島国税局の一員として働いています。実際にどの

ような仕事をしているのかをすべて説明することはできないので、私が当初配属された税務署の徴収部門を紹介します。徴収部門は、滞納された税金を徴収する部門であり、納税者からの納付の相談を受けたり、悪質な滞納者には「差押え」等の滞納処分を行ったりする部門です。現在、日本テレビ系列で放送されている「トッカン 特別国税徴収官」というドラマで描かれているように、いろいろときつい現場ですが、様々な滞納者と交渉するコミュニケーション能力や専門的知識を生かせる仕事であり、縁の下の力持ちとしてやりがいがあります。

十年前、奈良女子大学に入学した頃には想像していなかった現在です。将来の夢は大切なものですが、変えてはいけないものでもありません。就職難のこのご時世、進路に悩まれている方も多いでしょう。一つの夢に囚われず、少し視点を変えてみてはいかかでしょうか。



逆説・「諦める」YUKA

高橋 裕佳

大学院人間文化研究科 博士前期課程
 住環境学専攻 平成二十四年修了
 联創国際設計集団公司
 (連創国際設計集団公司)



YUKA
TAKAHASHI

現在、私は上海の現地法人で設計業務に携わっています。日系企業ではないため、八百人あまりの社員の大半は中国人、欧米圏の社員も多く、通常業務は英語を用いて行っています。このように私の職場・職業を説明すると、語学に堪能なキャリアウーマン(笑)のようですが、それは全くの勘違いであり、現実はずっと大変なものです。

学生時代から、英語は個人的に勉強していました。仕事となるとやはり語学の壁は高く、コミュニケーション一つとっても苦勞の毎日。同じアジア圏であっても、意匠設計への考え方・建築を取り囲む社会的背景には大きな違いがあるため、自分の納得のいく環境で仕事にとりくむことも俣たすないことも多々あります。

海外で仕事を始めてからというもの、日本へ帰りたいという気持ちや、自分の選択は間違っていたのではないかという不安に何度も襲われました。それでも、私はまだこの場所で、この仕事を続けたいと考えています。多かれ少なかれ、学生のみなさんも難しい問題に直面することがあるかと思えます。そんな時僅かながらみなさんの心の慰みにでもなることを願って、私の心構えを書かせていただきます。

私は、何事も「諦め」が肝心だと思

っています。

諦め、と聞くと途中で物事を放りだすなどのマイナスのイメージがありますが、その諦めとは少し違います。例えば何かに失敗した、目標に達しなかったとします。しかしそれは事実であり、どうしようもなく変えられないのです。それならば、これ以上嘆いても仕方がない。そこで思い悩むことをいかに早く「諦められるか」が、良い結果へと繋がるのだと私は考えています。

学生時代、私は住環境学専攻に所属し、研究室で様々な設計競技に参加してきました。設計競技というのは、設計課題や敷地に対し、数枚の作品シートのみで自分たちの考えを表現するもので、非常に限られた時間の中で魅力的なものを提案するのは非常に難しいことでした。

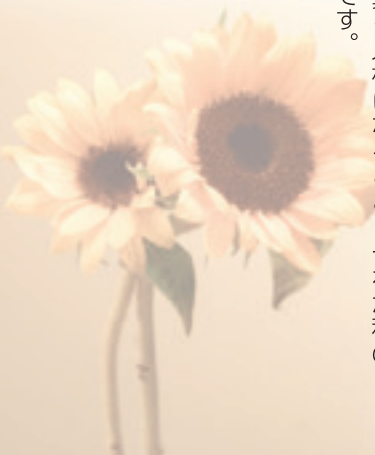
その際一番大事なことは、自分たちの考えを、いかに相手が理解出来るものとして提示できるかということだと感じました。時間ギリギリまで、最高のアイデアを練ったとしても、そこにそれを表現し伝えるものがなかったら、相手には何も伝わらないのです。そこで大事なのが「諦める」ことなのです。例えば今のアイデアは本当に満足いくものかは分からない。でもある程度で見切りをつけ、図面を書いていると、

そこから新しいアイデアが浮かんできたり、元々のアイデアの新しい側面をみつけたりすることが出来るのです。

「諦める」ことは、投げ出してしまふことではなく、「現在の力量や状態を把握することに努める」ことだと思えます。目先の新しさを求める気持ちや、納得いく成果が得られない焦りから、途方にくれることがあるかもしれません。でも目の前の状況をしっかりと捉えることさえできれば、次に何をすればいいのかは自然と見えてきます。

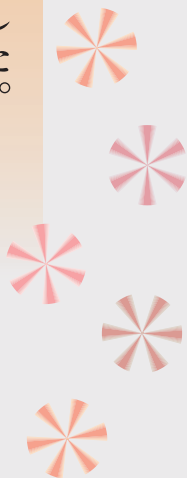
仕事に答えなんてありません。あるにはあるのですが、誰も最後まで本当に何が正しいかはわかりません。それでも自分なりに「諦め」ていくことが答えを見つかる近道だと私は信じています。

そして今、私は一つの目標にむかっています。アジア、世界の市場の中心であり続けるだろう中国で、日本と中国を繋ぐ人材になること、それが私の目標です。



佐保会だより

一般社団法人に移行しました。



佐保会館周りには桜、梅、銀杏があり各季節を色取っています。七月頃には、夏の主役の一つであるむくげの花が、満開になっていました。



佐保会は二〇一四年創立百周年を迎えます。伝統の重みを尊重しながらも新しく時代に即した佐保会へ変身しようとしています。

佐保会は単なる同窓会活動に止まらず社会的な活動をしています。佐保会は創立後二十年たった一九三一年に佐保女学院を設立し、一九六五年に学校法人佐保女学院短期大学に移行し、現在では倉敷、河内長野、生駒の三つの

付属幼稚園を持つ奈良佐保短期大学に発展しました。一九七八年には社会福祉法人佐保会経費老人ホーム佐保苑を設立、鹿の台保育園の設立など社会福祉事業の一日を担い現在に至っています。今後は先輩たちの意志を受け継ぎ益々社会に開かれた活動をするのが期待されています。

さて学生の皆さんに対して様々な行事を毎年定期的に行っています。六月には卒業生と在学生との交流会が開かれ今年で十八回目を迎えました。今年卒業後三〜四年の佐保会員を三名迎え「若き卒業生による、奈良女での積極的な学び」のすすめ〜ものづくりに女性の感性を生かす〜というテーマで文学部卒業生、中道牧子さん（JT B西日本）、理学部卒業生、平井珠生さん（日産自動車）、生活環境学部卒業生、阿南愛子さん（ワコール）の三名の方に就職活動や会社での仕事のことなどを講演して頂き、また学生さんとの活発な質疑応答もあり有意義な会となりました。また十二月には佐保会奨学金を大学から推薦された各学部、大学院、東南アジア留学生に授与しています。この事業は一九五九年の創立五十周年事業として始められました。一月の中旬には新年会が生協の食堂で行なわれ、

多くの予約会員も参加しています。美味いお正月の料理や、小音楽会、ゲーム等で楽しい一時をもっており毎年二百名を超える方たちでにぎわっています。次いで三月の卒業式での卒業生歓送会では、佐保会員からの祝辞で卒業生を送り、また佐保会への入会を歓迎しています。その他佐保会の地域に対する貢献活動があります。佐保塾として定期講座や、適時時代に合ったテーマの講演会や音楽会を開いています。多くの地域の方が楽しみながら継続して参加されています。又恋都祭に合わせ太極拳の演舞、バザーの開催、折り紙や書道の展示会など多彩な行事を繰り広げています。詳しくは佐保会のホームページをご覧ください。

佐保会は、一九三六年、社団法人格を取得し、公益事業とともに、公益事業に取り組んできましたが、二〇一二年八月からは、一般社団法人へと移行しました。今後は、一層の公益事業の充実が要請されます。今までの行事を継続、さらに発展させていくためにも若い皆様のご協力ご参加が必要です。興味のある方はどうぞ気軽に佐保会館までお越しください。

（文責 久留島涼子）



一冊の本からどのようなことが分かるだろうか。たとえば曲亭馬琴『夢想兵衛胡蝶物語』の活字翻刻本を前にしたとき、「分かる」のは読んだ内容だけだろうか。否。曲亭馬琴というネームヴァリューや半紙本という書型、活字翻刻本という一群、清朝体活字と自社印刷という選択、予約出版方法と東京稗史出版社という出版元の背後に見え隠れする和泉屋市兵衛という老舗の本屋。これらから「分かる」ことはさまざまあって、それらを明治15年という刊行された時代に置いてみたとき、たった一冊の本から時代の心性が見えてくるのである。

本書第一部では、東京稗史出版社をとおして見えてくる明治という時代について、出版史研究の立場から考察した。

第二部では、銅版草双紙や仏書、明治初期の新聞について、行政文書等を用いながら同時代的なありようについて考察した。

本や出版から時代のありようが見えてくるならば、次はどのような本から時代を見ようか。

『出版文化の明治前期
—東京稗史出版社とその周辺—』

磯部敦著

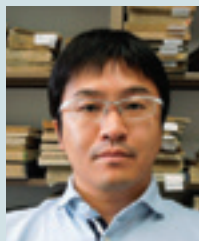
2012年、ペリかん社、7,500円+税

磯部

敦

文学部 准教授
言語文化学科

日本アジア言語文化学コース



ATSUSHI
ISOBE

「出版文化の明治前期

—東京稗史出版社とその周辺—」



この世に生まれ、年老い、病を得て、死を迎える—仏教に謂う「四苦」を、私たちの祖先は一体どのように捉えていたのだろうか—イコノロジー（図像解釈学）の方法を用いて、この問題にアプローチを試みたのが本書です。

考察の対象としたのは、主に仏教説話画。仏典に基づき描かれた諸作品は、わが国中世期には絵解きに用いられました。それはつまり難解な数理を平易に要約して人々に伝える、今日的な言い方をすればメディア（情報伝達装置）だったのです。

共同体内部の「寛容」と「排除」あるいは外部への「開かれ」といった隠れた主題が、説話画を「読む」ことから導き出されます。かつて市井の人々が心中に抱いていた人生観・宇宙観と呼ぶべきものが、浮かび上がってくるのです。

いまの私は、説話画では表し切れていない人生の澱のようなものが気になっています。

それは、東北大地震のリアリティをマスクミではどこまで伝え切れたのかといった疑問に端を発します。次著では、美術史学の立場から「表象不可能性」の問題について考えてみようかと構想中です。

『生老病死の図像学

—仏教説話画を読む—』

加須屋誠著

2012年、筑摩書房、1,800円+税

加須屋

誠

文学部 教授
人文社会学科

古代文化学コース



MAKOTO
KASUYA

「生老病死の図像学」



江戸時代、「^{ほうそう}痲疹は見目定め、^{はしか}麻疹は命定め」といわれた。痲疹が「見目定め」というのはよくわかるが、麻疹が「命定め」といわれるような重病であるとは、現代人には奇異に感じられるはずだ。麻疹は、現代日本では毎年春先を中心に流行を繰り返す小児感染症だが、江戸時代は20年から30年の流行間隔があり、子供の時に感染する機会のなかった成人まで罹患して、重症化する場合も多かったのである。

江戸時代後期からは麻疹が流行するたび、都市を中心に大混乱が起こる。医薬品や食料等の諸物価高騰、玉石混濁の医療情報の氾濫、人手不足に起因する社会機能のマヒ、飲食業・風呂屋・遊郭・芝居関係を中心とした諸商売の不況等々。本書は麻疹という感染症がもたらすパニックが、医療化社会の進行やメディアの発達、ライフスタイルの都市化等を背景に肥大化する歴史的過程を、医学書・文芸・浮世絵・御触書などから描く。

『江戸の流行り病
麻疹騒動はなぜ起こったのか』
鈴木則子著
2012年、吉川弘文館、1,700円+税

鈴木則子

生活環境学部
生活文化学科
准教授



NORIKO
SUZUKI

「江戸の流行り病

麻疹騒動はなぜ起こったのか」



本書は、51人の執筆者が「こんな数学書が面白い、読んでほしい、読みたい」をテーマに思い思いの数学書論を展開して編まれたものです。書き手は数学者に限らず、工学、物理学、経営学、文筆家、政治家等々、バラエティーに富んでいるので、専門外の人にも楽しめる本がたくさん紹介されています。なかには小学生が読める本もあります。私も、思わず何冊か購入しました。

学生時代に勉強した本の思い出が勉強法とともに語られ、その本との出会い、読み方の秘訣、数学書との格闘・葛藤、思い入れなど、執筆者の肉声が聞こえてきます。この人は、学生時代にこのような勉強をしていたのかとか、あのフィールズ賞受賞者は、高校生の時にこの本を読んで、こんなことを考えていたのか等々、読んでいて興味は尽きません。

数学書の紹介本ではありますが、単なる書評本とは一味違い、執筆者の数学への思いの伝わってくるユニークな本です。

『この数学書がおもしろい 増補新版』
数学書房編集部編
2011年、数学書房、1,800円+税

松澤淳一

理学部
数学科
教授
構造数学講座



JUNICHI
MATSUZAWA

「この数学書がおもしろい 増補新版」

TOMOKO HASHIMOTO
橋本 朋子

- ①生活環境学部 助教
- ②生活健康・衣環境学科 衣環境学専攻
- ③生体・高分子材料学
- ④大阪府

私立初芝富田高等学校
京都工芸繊維大学繊維学部高分子科学
京都工芸繊維大学大学院工学科学研究科博士前期課程高分子学専攻
京都工芸繊維大学大学院工学科学研究科博士後期課程機能科学専攻



再発見・新発見の奈良にて

今年4月に茨城県つくば市の農業生物資源研究所から本学に赴任して参りました。関西出身でありながらこれまであまりご縁がなかった古都・奈良の魅力や、改めて実感する日々です。穏やかで心地よい時間が流れるこの奈良女子大学にて、「衣」という観点から、生活環境を向上させうる新しい機能性材料を研究・開発していく所存です。

今後とも、先生方、学生さんからパワーをいただきながら充実した研究・教育生活を送れるよう精進いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ATSUO TAKINO
瀧野 敦夫

- ①生活環境学部 講師
- ②住環境学科
- ③木質構造学
- ④兵庫県

兵庫県立長田高等学校
大阪大学工学部地球総合工学科建築工学コース
大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻



古都・奈良の都市防災

中学生の時に阪神淡路大震災を経験し、これが直接のきっかけではありませんが、気づけば耐震構造の研究に携わるようになりました。

2011年に発生した東日本大震災では被災地での被害建物調査も実施しましたが、これまであまり地震が起きていなかった地域での古い建物の振動被害がよく見られました。奈良には世界遺産を始め、非常に多くの歴史的建造物が残されています。奈良女子大学に赴任したことを契機に、できる限り多くの木造建物の調査を行い、少しでも古都・奈良の都市防災に貢献できればと考えています。

MIHO MITSUNARI
三成 美保

- ①生活環境学部 助教
- ②生活化学学科
- ③ジェンダー法学・ジェンダー史・西洋法制史
- ④香川県

香川県立三本松高等学校
大阪大学文学部史学科
大阪大学大学院法学研究科博士前期・後期課程(公法学専攻)



女子高等師範の伝統

奈良女は、女子高等師範の伝統を持つ名門大学。女性が大学から排除されていた時代に、奈良女高師が果たした役割の大きさは計り知れません。戦後も、国立女子大学として、女性のキャリア教育に多大な貢献をしました。多くのすぐれた女性がこの学舎に集い、夢を語り合ったことでしょう。法学の世界で「法女性学」が誕生したのは1983年、「ジェンダー法学会」が発足したのは2003年。男性中心だった学問領域でも、ようやく女性の視点や主体性が論じられるはじめられました。そのずっと前から紡がれた奈良女の伝統に敬意を払いつつ、研究・教育に励む所存です。

SHIORI SUGAWARA
菅原 詩緒理

- ①生活環境学部 助教
- ②食物栄養学科
- ③臨床栄養学
- ④岩手県

岩手県立水沢高等学校
宮城学院女子大学学部家政学科
奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程食物栄養学専攻



学生から教員へ

今年7月に博士後期課程の大学院生から教員という立場に変わり、未だ慣れない日々を過ごしております。奈良に住み5年目になりますが、奈良は自然豊かで四季が美しく生まれ故郷の東北が重なります。臨床現場で働いた経験を活かし、将来臨床現場へ飛び出していく学生達に少しでも多くのことを伝え、又、研究も共に頑張りたいと思います。教員としても研究者としても未熟者ですが、精一杯頑張りますのでどうぞ宜しくお願い致します。

新任部局長紹介

- ①所属学部等・職名
- ②所属学科・専攻分野



角田 秀一郎
SHUICHIRO TSUNODA

理学部長

- ①理学部(自然科学系) 教授
- ②数学科・代数幾何学

私の専門は、図形を、方程式を使って分析する分野です。研究過程で、未知の対象があって、数学の研究対象である数、図形、運動はその未知の対象を三つの異なる方向から見たものと見なせそうだとすることに気付きました。ただ、もうちょっとでその未知の対象を手に入れることが出来そうと思ってから10年立ちました。

理学部長としては、教員にも学生にも100年先を見据えた研究を期待しますし、そのための教育研究環境の整備を行っていききたいと思います。

新任教員紹介

- ①所属・職名
- ②所属学科
- ③専攻分野
- ④出身地・出身校(学部、学科別50音順)

MAKIKO OKAZAKI
岡崎 真紀子

- ①文学部 准教授
- ②言語文化学科
- ③和歌文学・中古世国文学
- ④東京都

成城学園高等学校
成城大学文学部国文学科
成城大学大学院文学研究科博士課程前期(国文学専攻)
成城大学大学院文学研究科博士課程後期(国文学専攻)



奈良で学ぶ

東京で生まれ、神奈川の実家で長年暮らし、静岡大学における4年間の教員生活を経て、本学に着任しました。だんだん西へ西へと移ってきて、今年度から古都の人間になったというわけです。奈良には、私が専門とする古典文学ゆかりの寺社や風景が、今の日常空間のなかに、昔の姿のまま、ごく当たり前に生きっています。

これほど恵まれた環境は、他のどこにもありません。奈良女子大学で学生の皆さんと共に学び、ひとりひとりが大人の女性として巣立ってゆくまでの過程を見守りながら、自分も研究者としてますます成長してゆきたいと思っています。

ATSUKO TSUJI
辻 敦子

- ①文学部 助教
- ②人間科学科
- ③臨床教育学・教育人間学
- ④大阪府

大阪府立南高等学校英語科
京都大学教育学部
京都大学教育学研究科臨床教育学講座博士前期課程
京都大学教育学研究科臨床教育学講座博士後期課程



山々に囲まれて

この春、大文字山の麓から若草山の麓へと居を移してまいりました。京都では哲学の道沿いにある古いアパートで過ごしました。疎水沿いの桜や紫陽花、そして、踏むときゅっきゅっと音を立てる雪道がとても気に入っております。

これ以上の環境は望めまいと思っておりましたが、奈良では、窓の外に若草山が広がる部屋が見つかりました。今から山焼きの季節を待ち遠しく思っています。

私の専門は教育学です。「目に見える成果」という形では測り切れない、教育の彩りのようなもの・ことを、「物語(ナラティブ)」という観点から考えています。

YOSHIE TAKIZAWA
滝澤 祥恵

- ①生活環境学部 助教
- ②食物栄養学科
- ③食品機能科学
- ④長野県

長野県歴代高等学校理数科
奈良女子大学生活環境学部食物栄養学科
奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程食物栄養学専攻



教員として、卒業生として

私は今年の4月から奈良女子大学食物栄養学科の助教として赴任いたしました。3月までは本学の学生として、4月からは立場を新たに教員として関わることができ、嬉しく思っています。教員としても研究者としてもまだまだ未熟ですが、奈良という文化的にも恵まれた環境の中で、みなさんと一緒に学び、充実した時間を過ごしていけたらと思っています。そして、卒業生の一員としても、先輩方が築きあげた伝統の継承と更なる発展へ貢献するべく日々励んでいきたいと思っております。これからどうぞよろしくお願い致します。

☆特に優れた業績による返還免除（大学院 第一種奨学金）

大学院において、日本学生支援機構第一種奨学金の貸与を受けた学生を対象として、在学中に特に優れた業績をあげた者として認定された場合に貸与期間終了時に奨学金の全部または一部の返還が免除される制度があります。

詳細については、1月頃に学内掲示板にてご案内しますので、ご確認ください。

☆家計急変による奨学金（緊急採用・応急採用）

失職、破産、事故、病気、死亡等若しくは火災、風水害等の災害等により家計が急変し、緊急に奨学金が必要となったと認められ、家計急変の事由が発生してから12ヶ月以内である者を対象として、年間を通じて随時申請ができる緊急採用・応急採用の制度があります。

詳細については、学生生活課の窓口にてご相談ください。

授業料免除についてのお知らせ

平成25年度前期分授業料免除及び徴収猶予に関する申請書類の配布及び申請受付を下記のとおり予定しています。

詳細については、2月上旬に本学ホームページ及び掲示板にてお知らせすることとしています。

申請書類配布：2月上旬～4月上旬
申請受付：4月上旬～4月中旬

広部奨学金授与式について

平成24年度広部奨学金授与式が7月5日（木）にコラボレーションセンター応接・会議室にて行われました。

広部奨学金は、本学卒業生の故広部りう殿（福井県出身 奈良女子高等師範学校本科学部化学部1期生 大正2年3月卒業）のご遺志により寄附された資金をもって設けられた奨学金制度です。各学部・研究科長より推薦された人物・学業ともに優秀な本学学生に授与するものであり、今年度は次の8人に証書及び奨学金が野口学長から贈られました。



| | | | |
|---------------|------------|-----|-------|
| 文学部 | 人間科学科 | 3回生 | 加藤 柚衣 |
| 文学部 | 言語文化学科 | 4回生 | 三谷由里香 |
| 理学部 | 数学科 | 4回生 | 井上 沙紀 |
| 理学部 | 物理科学科 | 4回生 | 小林 加奈 |
| 生活環境学部 | 生活健康・衣環境学科 | 4回生 | 小林 弓華 |
| 生活環境学部 | 住環境学科 | 4回生 | 松崎 良子 |
| 人間文化研究科博士前期課程 | 物理科学専攻 | 1回生 | 八巻 温子 |
| 人間文化研究科博士後期課程 | 共生自然科学専攻 | 2回生 | 牧野 舞 |

CHIE MUROSAKI

室崎 千重

- ①生活環境学部 講師
- ②住環境学科
- ③住生活学
- ④京都府

私立京都女子高等学校
神戸大学工学部建設学科
神戸大学大学院自然科学研究科建築学専攻博士前期課程
神戸大学大学院自然科学研究科地域空間創生科学専攻博士後期課程



優しく凛とした環境の中で

大阪での建築設計事務所勤務、兵庫県立福祉のまちづくり研究所での研究員を経て、今年の8月より奈良女子大学に赴任いたしました。奈良のまちの落ち着いた佇まいや大学のゆったりとしたながらも凛とした空気感に触れて、この場所で、教員としてまた研究者として働くことができることを、大変嬉しく思っています。

専門は、住まいや暮らしのあり方を生活の視点から探る住生活学です。奈良の魅力的なまちや地域の方々と繋がりを感じながら、学生さんと一緒に楽しく頑張りたいと思いますのでどうぞよろしくお願い致します。

学生生活支援

学生相談室から

●学生相談室を、一度訪ねてみませんか。

学業や進路の不安、日常生活で困ったこと、対人関係など、さまざまな心配事について一緒に考えましょう。

話を聞いてもらうだけでも、落ち着くこともあります。

相談室はあなたの話にじっくり耳を傾けます。

そのことで解決の糸口が見つかるかもしれません。

内容に応じて適切な人や機関を紹介することもできます。

●開室日及び開室時間

月曜日～金曜日 午前10時～午後5時

夏季休業期間中は原則として月曜と木曜のみ開室

8月第3週と第4週、年末年始、入学試験日（前期・後期）は閉室します。

上記以外で閉室する場合は、ホームページ又は相談室前にその旨を掲示することにより、お知らせします。

学生相談室の場所は学生会館3階です。

TEL. 0742-20-3925

Eメール soudan@cc.nara-wu.ac.jp

HP <http://www.nara-wu.ac.jp/soudan/>

●スタッフ

■相談受付

金 文子（月曜日・水曜日・金曜日）

岩井 涼子（火曜日・木曜日）

■カウンセラー

皆藤 靖子（臨床心理士）

竹村 百代（臨床心理士）

■相談員

山辺 規子（教員）

西岡 弘明（教員）

中山 徹（教員）

平成24年度就職活動支援行事カレンダー(後期分)

就職を希望する学生に対して、各種就職活動支援行事を企画・実施しています。就職マニュアル本からは得られない知識や情報等の収集の場として、積極的に参加・活用してください。行事の詳細な内容や、実施日時・場所に変更があった場合などは、順次掲示で通知しますので、図書館横の学生生活課の掲示板をいつも見るように心がけてください。

【就職支援対策講座】

*企業・教員・公務員等に拘わらず、就職希望者全員が受講対象です。

| 月・日 | 曜日 | 就職活動支援行事(対策講座名) | 時間 | 教室 | 対象 |
|----------------|----|---|------------------------------|-------------------|--------------------|
| 10/10 | 水 | 就職活動における情報収集Ⅱ | 16:30~18:10 | S235 | 3回生・M1 |
| 10/15 | 月 | ビジネスマナー ~面接に備えて~ | 16:30~18:40 | S235 | 3回生・M1 |
| 10/18 | 木 | 筆記試験対策講座 | 16:30~18:10 | G101 | 学年不問 |
| 10月下旬 (複数日) | | 業界研究(金融・メーカー・IT・中小企業等) | 16:30~18:10 | 未定 | 学年不問 |
| 10/30 | 火 | 筆記試験対策模擬テスト【有料】 | 16:30~18:00 | G101 | 3回生・M1 |
| 11/7 | 水 | エントリーシート対策 | 16:30~18:10 | S235 | 3回生・M1 |
| 11月中旬 | | 就活のためのメイクアップセミナー | 16:30~18:10 | 未定 | 3回生・M1 |
| 11/14 | 水 | エントリーシートが書けるようになろう! | ①10:40~12:10 ②14:40~16:10 | D012 | 3回生・M1 |
| 11月中旬 ~12月 | | グループディスカッション対策講座 | 未定 | 未定 | 3回生・M1 (県内大学合同) |
| 11/19 | 月 | 面接(全般)対策 | 16:30~18:10 | S235 | 3回生・M1 |
| 11/20 | 火 | エントリーシート対策模擬テスト【有料】 | 16:30~18:00 | G201 | 3回生・M1 |
| 11/21 | 水 | | | | |
| 11/28 | 水 | ナビ各社の説明 | 16:30~18:10 | S235 | 3回生・M1 |
| 12/1 | 土 | 模擬グループ面接 | ①10:00~12:00 ②14:00~16:00 | G202 G203 | 3回生・M1 |
| 12/5 | 水 | 就職内定者による体験報告会 | 16:30~18:10 | S235 | 3回生・M1 |
| 12/19 | 水 | 就活の総まとめ | 16:30~18:10 | S235 | 3回生・M1 |
| 12/25 | 火 | 模擬面接 | 未定 | E107 | 3回生・M1 |
| 12/26 | 水 | | | | |
| 25. 1/15 | 火 | 学内合同企業説明会事前研修会 | 16:30~18:10 | S235 | 3回生・M1 |
| 1/26 | 土 | 学内合同企業説明会 | 13:00~17:00 | S235, 記念館 学生会館 | 3回生・M1 |
| 2月中旬(土) 予定 | | 「関東地区就職希望者のための就職懇談会」 (同窓会 佐保会東京支部との共催) | 13:00~16:00 | 佐保会 東京会館 | 2回生以上 |

【教員・公務員対策講座】

*教員・公務員志望者は、併せて就職支援対策講座の受講が必要です。

| 月・日 | 曜日 | 就職活動支援行事(対策講座名) | 時間 | 教室 | 対象 |
|-----------------|----|----------------------|-------------|------|-------|
| 12/13 | 木 | 教員・公務員採用試験合格者体験報告会 | 16:30~18:10 | G202 | 2回生以上 |
| 2月実施予定 (4日間) | | 教員・公務員採用試験対策論文講座【有料】 | 9:00~12:10 | 未定 | 2回生以上 |

セミナーやガイダンスに授業等で参加できなかった人は、ビデオ撮影したものをキャリアサポートルームで視聴することができます。後日、時間があるときに、学生生活課就職係に申し出てください。

カルト集団に注意を!

「カルト」(cult)とは、もともと「崇拜」とか「熱狂」といった意味ですが、今日ではもっぱら熱狂的な宗教集団をさして使われていることばです。オウム真理教事件のことなどは、みなさんも聞かれたことがあると思います。

世の中にはさまざまなカルト集団がありますが、どの集団も特に、親元から離れて人生の新しい段階に至って期待と不安の両方を併せ持っている大学生を標的に、勧誘活動を繰り返しています。残念ながら本学においても、彼等のさまざまな活動が確認されています。

カルト集団の手口は、初めは宗教的な勧誘であると明らかにすることなく、あるいはスポーツ、あるいは文化活動などへの誘いをかけ、じゅうぶんに引き込んだと判断して初めて自分たちの正体を明らかにする点で共通しています。その時点では集団メンバーと人間的な関係が造られていたり、あるいは「洗脳」が進んでいたりして、なかなか抜け出せないところに追い込まれがちです。

しつこい勧誘などを受けて、「あれ?」と疑問に思ったら、ぜひまわりの教員や学生生活課学生生活係(F棟1F、TEL:0742-20-3280)、学生相談室(学生会館3F、TEL:0742-20-3925)などにご相談ください。あなたのご連絡がカルト集団の暗躍の防止に繋がります。もちろん相談の秘密は厳守されます。

なお本学では、水曜日午後開設(前期)している「大学生生活入門」の中で「キャンパスにおけるカルトの実態」についても解説しています。この講義に出席していなくても、その講義レジュメが欲しい人は、学生生活課学生生活係に申し出てくれればお渡しできます。